

3年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「わたしの市の歩み」 ～いろいろって、未来 これまでとこれからの川崎市～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿
（省略）

3. 単元目標

川崎市や人々の生活の様子について、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりしてまとめ、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決しようとしたり、学習したことを基に、市の発展のために、市が将来どのようなようになってほしいのか、自分達が市民としてどのように行動していけばよいのかを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生活の道具、交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いについて、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子や取組を理解している。 ②調べたことを年表や文章などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解している。	①生活の道具、交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いに着目して、問いを見いだし、市の人々の生活の様子について考え表現している。 ②川崎市や人々の生活の時間の経過に伴う移り変わりや、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いを比較、関連付け、総合などして、市の人々の生活の様子の変化について考えている。	①川崎市の様子の移り変わりやこれからの市の発展について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、これからの市の発展について、市が将来どのようなようになってほしいのか、そのためには市民としてどのように行動していけばよいのかなどを考えようとしている。

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

（1）教材化 ～川崎市の一員である自分に気付き、市の発展を考える～

本単元では、時間の経過に伴って変化してきた、人々の生活の様子や市の様子について捉え、単元の終末には既習事項を生かして市の発展について考えられるように教材化しました。これから日本という国や各自治体が発展していくために避けて通ることのできない超高齢化という課題を取り上げ、その課題に対して自分達の住むまちや川崎市がどのような取組をしているのかを知ることを通して市の発展のために自分達にできることはないかと考えられるようにしました。そのために、川崎市内で課題となり、具体的に取り組まれていることの意味を考えることを通して、子ども達一人一人が川崎市の一員として生活していく態度を養いたいと考えました。

(2) 学習過程 ～「時期や時間の経過」の見方・考え方を働かせるための学習過程～

本単元では、「交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違い」に着目し、市や人々の生活の様子の変化について考えていきました。そのため、単元を前半と後半に分け、前半で「道具の変化」について扱い、後半で「市の様子の変化」について扱うようにしました。年表に学習したことを記録し、学びを積み重ねていくことで、時間の経過に伴って様々なことが変化してきたことに気付けるようにしました。また、時間の経過はこれからも続いていき、その経過の結果、どのようなことが起きるのかを単元の終末に考えることを通して、市の発展は10年後、20年後の自分の生活にも関わりがあることとして考えられるような学習過程を設定しました。

(3) 学習活動 ～体験的な活動と資料の読み取りの基礎を養う学習活動～

単元前半では、昔の道具の一例として、洗濯板を使う体験をしました。体験してわかったことや疑問に感じたことを生かして道具やそれに伴って変わる生活の変化を捉えられるようにしました。単元の後半では、数値や地理的な変化など、資料を読み取って考える場面が多くなります。社会科がスタートした学年であるため、資料の読み取りをクラス全体で共有し、共通の土台に立って学習を進めることで、市の様子の変化を捉えられるようにしました。また、社会科の学習で初めて出てくる「時期や時間の経過」の見方・考え方を働かせることができるように、学習したことが積み重なっていくような年表を活用して学習を進めました。

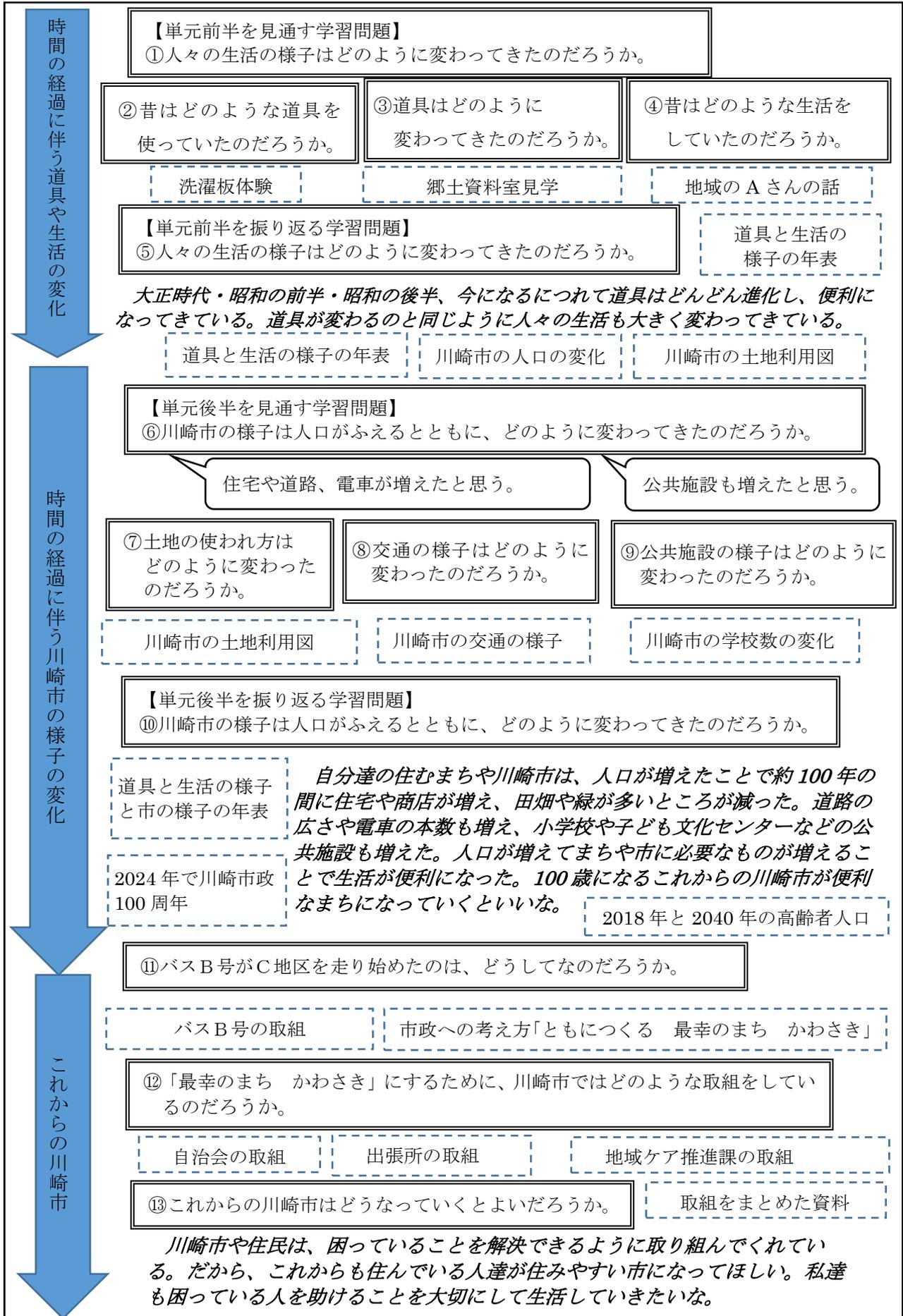
(4) 指導と評価 ～子どもたちの確かな理解と次の学びへとつなげる指導と評価のために～

日々の授業の中での問題解決的な学習の仕方を指導したり、授業後にノートへの記述を見取り、習熟度を把握して指導を繰り返したりすることで、話し合っ解決する方法やノートへの記述の仕方などが身に付くようにしました。また、子ども達のまとめや振り返りを授業で共有する場面を設定し、自己評価を行い、自らの学びを高められるようにしました。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～クラス全員で学び、理解する教室～

単元の後半になると、学習問題に対する予想を考えることが難しい児童が増える傾向にありました。また、書いていても考えを挙手して発言することに抵抗感がある児童が多くいました。そのため、子ども一人一人が考えをもてるように、導入の資料をわかりやすいものにするなどの具体的な手立てを行いました。更に、考えを価値づけたり、学習状況を把握したりすることで多くの児童の考えが反映された上で、学習計画を立てたり、問題解決したりできるようにしました。

6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想

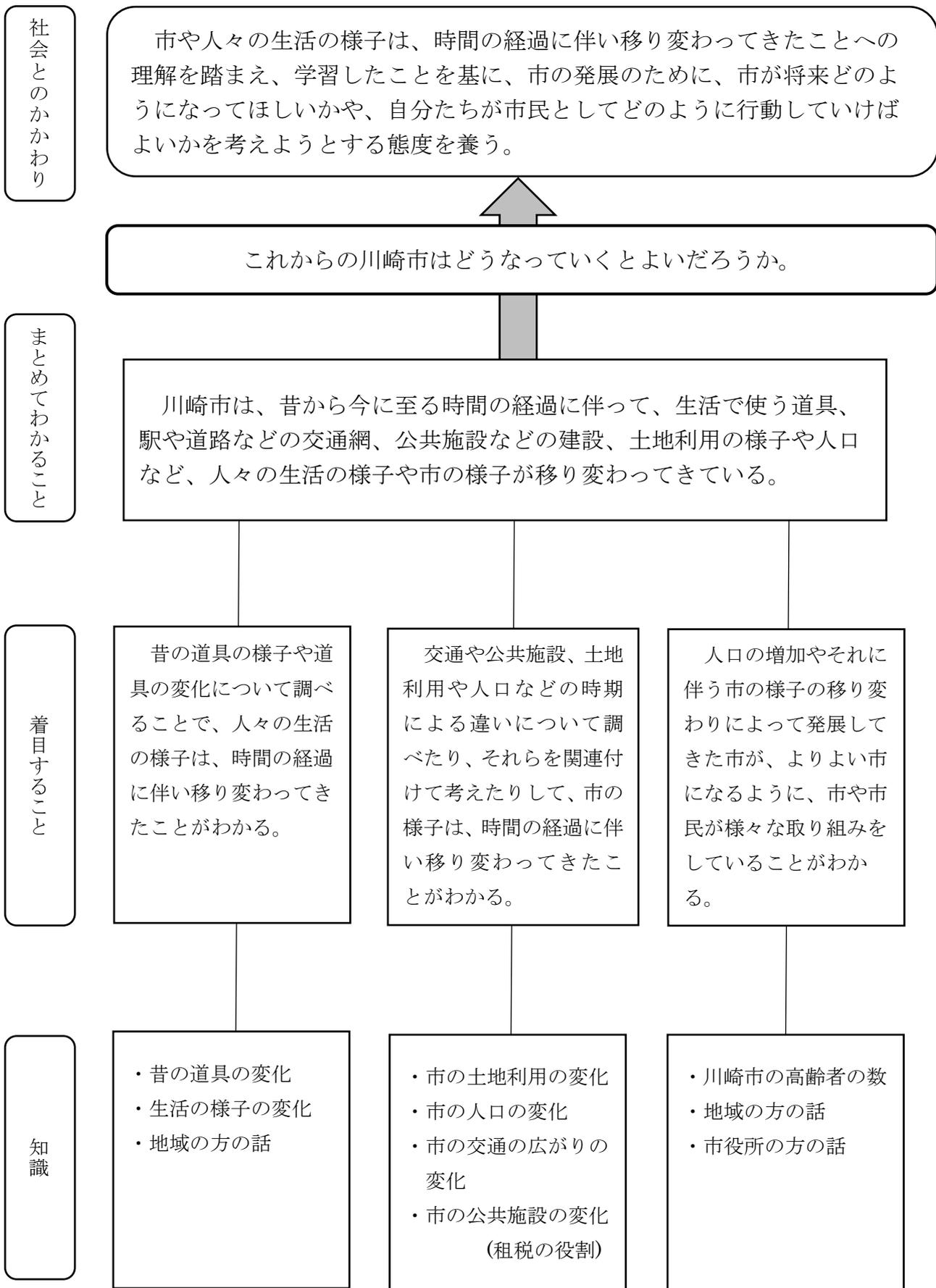


7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（13時間）※は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
①人々の生活の様子の移り変わりについて学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○教科書のイラストや写真などから学習問題をつくる。 ○学習問題の予想を考え、学習計画を立てる。	◇昔の生活の図 ◇今の生活の図	ノートへの記述や発言内容から、「生活の道具など時期による違いに着目し、問いを見いだしているか」を評価する。【思－①】 ノートへの記述や発言内容から、「生活の様子の移り変わりについて予想や学習計画を立てているか」を評価する。【態－①】
②時代ごとに使用されていた道具の様子を理解できるようにする。	○昔の道具の使い方を調べたり、実際に使用してみたりする。	◇ふるさと資料館の道具 ◇洗濯板体験	ワークシートやノートへの記述や使用している様子から「昔の生活の道具の使い方を理解しているか」を評価する。【知－①】
③生活の道具などの時期による違いを理解できるようにする。	○前時に調べた道具がどのように変化してきたのかをインターネットで調べる。 (GIGA)	◇昔の道具の変遷 ◇元号入りの年表	ワークシートへの記述内容から、「生活の道具の時期による違いを理解しているか」を評価する。【知－①】
④時代ごとの生活の様子を理解できるようにする。	○時代ごとの遊びや生活の様子を調べる。	◇地域の方の話 ◇元号入りの年表	ワークシートへの記述内容から、「時代ごとの生活の違いを理解しているか」を評価する。【知－①】
⑤人々の生活の様子の変化について考えることができるようにする。	○調べたことを年表にまとめ、人々の生活がどのように変化しているかを考える。	◇地域の方の話 ◇元号入りの年表	年表への記入内容とノートへの記述から、「人々の生活の時間の経過に伴う移り変わりと、生活の道具などの時期による違いを比較・関連付け生活の様子の変化を考えているか」を評価する。【思－②】
⑥川崎市の様子の移り変わりについて、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○川崎市の人口の変化の棒グラフから学習問題をつくる。 ○学習問題の予想を考え、学習計画を立てる。	◇市の人口の移り変わりを表す棒グラフ ◇川崎市の昔と今の写真	ノートの記述や発言内容から、「市の様子などの時期による違いに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思－①】 ノートへの記述や発言内容から、「川崎市の様子の移り変わりについて予想や学習計画を立てているか」を評価する。【態－①】
⑦川崎市の土地利用の変化について理解できるようにする。	○年代別の土地利用図から時代ごとの土地利用の様子を調べる。	◇年代ごとの土地利用図	ノートへの記述や発言内容から、「土地利用の時期による違いについて、土地利用図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、様子を理解しているか」を評価する。【知－①】

<p>⑧川崎市の鉄道や道路の変化について理解できるようにする。</p>	<p>○年代別の写真や道路図などから交通の移り変わりを調べる。</p>	<p>◇駅周辺の昔と今の写真 ◇年代ごとの路線図と道路図</p>	<p>ノートへの記述や発言内容から、「交通の時期による違いについて、地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、様子を理解しているか」を評価する。 【知－①】</p>
<p>⑨川崎市の人口の増加に伴う公共施設の変化について理解できるようにする。</p>	<p>○学校の数の変化について調べ、移り変わりの理由を考えている。</p>	<p>◇学校の移り変わりの棒グラフと分布図 ◇市役所の方の話</p>	<p>ノートへの記述や発言内容から、「公共施設の時期による違いについて、地図などの資料で調べ、必要な情報や様子を理解しているか」を評価する。 【知－②】</p>
<p>⑩川崎市の様子の移り変わりについて考え、表現することができるようにする。</p>	<p>○市の様子の移り変わりを年表にまとめる。 ○年表から移り変わりの様子を調べる。</p>	<p>◇これまで作成してきた元号入りの年表</p>	<p>年表への記入内容とノートへの記述から、「交通や公共施設、土地利用や人口の時期による違いを比較、関連付け、総合などして、市の様子の変化を考えているか」を評価する。 【思－②】</p>
<p>⑪住民と川崎市が協力して住民を助けるために取り組んでいることについて理解できるようにする。</p>	<p>○地域の住民と川崎市が連携していることを考える。 (GIGA)</p>	<p>◇バスB号の写真ルート図 ◇2040年までの高齢者人口予測グラフ</p>	<p>ノートへの記述や発言内容から、「住んでいる人と川崎市が協力して住民を助けるために取り組んでいることについて理解しているか」を評価する。 【知－②】</p>
<p>⑫川崎市が「ともにつくる 最幸のまち かわさき」へ取り組んでいることを理解できるようにする。</p>	<p>○「ともにつくる 最幸のまち かわさき」にするために取り組んでいることを調べる。</p>	<p>◇教師が用意した市の取組の事例</p>	<p>ノートへの記述や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市や人々の取組を理解しているか」を評価する。 【知－②】</p>
<p>⑬学習したことを基に、これからの川崎市の発展について考えようことができるようにする。</p>	<p>○これまでの学習を振り返り、川崎市が今後どうなってほしいかを考え、まとめたことを市の担当者にオンライン通信で発表する。 (GIGA)</p>	<p>◇市役所の方の話 ◇子どもたちが作成した発表資料</p>	<p>ノートへの記述や発言内容から、「学習したことを基に、これからの市の発展について、市が将来どのようになってほしいか、そのためには市民としてどのように行動していけばよいかなどを考えているか」を評価する。 【態－②】</p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構造図



社会とのかかわり

市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことへの理解を踏まえ、学習したことを基に、市の発展のために、市が将来どのようになってほしいかや、自分たちが市民としてどのように行動していけばよいかを考えようとする態度を養う。

まとめてわかること

これからの川崎市はどうなっていくとよいだろうか。

川崎市は、昔から今に至る時間の経過に伴って、生活で使う道具、駅や道路などの交通網、公共施設などの建設、土地利用の様子や人口など、人々の生活の様子や市の様子が移り変わってきている。

着目すること

昔の道具の様子や道具の変化について調べることで、人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことがわかる。

交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いについて調べたり、それらを関連付けて考えたりして、市の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことがわかる。

人口の増加やそれに伴う市の様子の移り変わりによって発展してきた市が、よりよい市になるように、市や市民が様々な取り組みをしていることがわかる。

知識

- ・ 昔の道具の変化
- ・ 生活の様子の変化
- ・ 地域の方の話

- ・ 市の土地利用の変化
- ・ 市の人口の変化
- ・ 市の交通の広がりの変化
- ・ 市の公共施設の変化 (租税の役割)

- ・ 川崎市の高齢者の数
- ・ 地域の方の話
- ・ 市役所の方の話

ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

◆ 3年部会研究の重点

主体的に社会と関わることで、川崎市への愛情や誇りを深める子

社会科が楽しい

体験活動の充実

人々の思いや願い

問題解決的な
学習の充実

社会科の学び方
を身に付ける

社会のしくみ
を理解する

地域への愛情
を高める

地域の人々の働き

工夫や努力

3年部会で大切に考えてきたこと！

重点① 川崎市の発展を考えるための地域素材の活用（教材化）

川崎市の発展を考えるための地域素材として、地域で取り組んでいる「バスB号」の事例を取り上げました。「バスB号」は身近な地域を走るバスとして地域住民に利用されています。川崎市と利用者協議会、運行事業者の三者によって繰り返し話し合い、その地域と近くのを結ぶ「住民の足」として大切な役割を果たしています。川崎市バスと「バスB号」の路線が重なるという資料から、川崎市が住民の生活をよりよくするために取り組んできたことを理解できるようにしました。そして「ともにつくる 最幸のまち かわさき」という市政の考え方と関連付けて、川崎市の発展に目を向けて考えていくような展開を考えました。単元の最後には、市の発展を考え、市役所の担当者の方の言葉からその考えを価値付けてもらうことで、市の工夫や努力に気付くようにし、目指す子どもの姿になっていく実践になるようにしました。

重点② 問題解決的な学習の充実（学習過程）

単元を3つの構成にすることで児童が時間や社会の変化を考えやすく、見通しをもって学習できるような学習過程を考えました。単元の前半では、生活の道具の移り変わりを通して人々の生活の様子を捉えました。見学や地域の方の話を聞く体験活動を取り入れて、自分たちの生活の変化を捉えやすくなるようにしました。単元中盤では、川崎市の移り変わりについて調べ考える際に、「人口」を柱として学習を展開するようにしました。人口の変化に「土地利用」や「鉄道・道路」「公共施設」の視点を結び付けることで、川崎市の様子の変化の理解につながりました。単元の後半では、それらの学びを生かして地域の取組と市政の考え方を結び付けて川崎市の発展を考える学習にしました。

単元の3つのまとめごとに、学びの足跡として年表にまとめ、「時期や時間の経過」や「事象や人々の相互関係」といった、社会的な見方・考え方はたらかせて問題解決していくような学習活動を取り入れました。また、川崎市の取組について調べたり、学習を振り返ったりする際に、児童が自ら GIGA 端末を活用できるような時間も問題解決的な学習に生かしました。